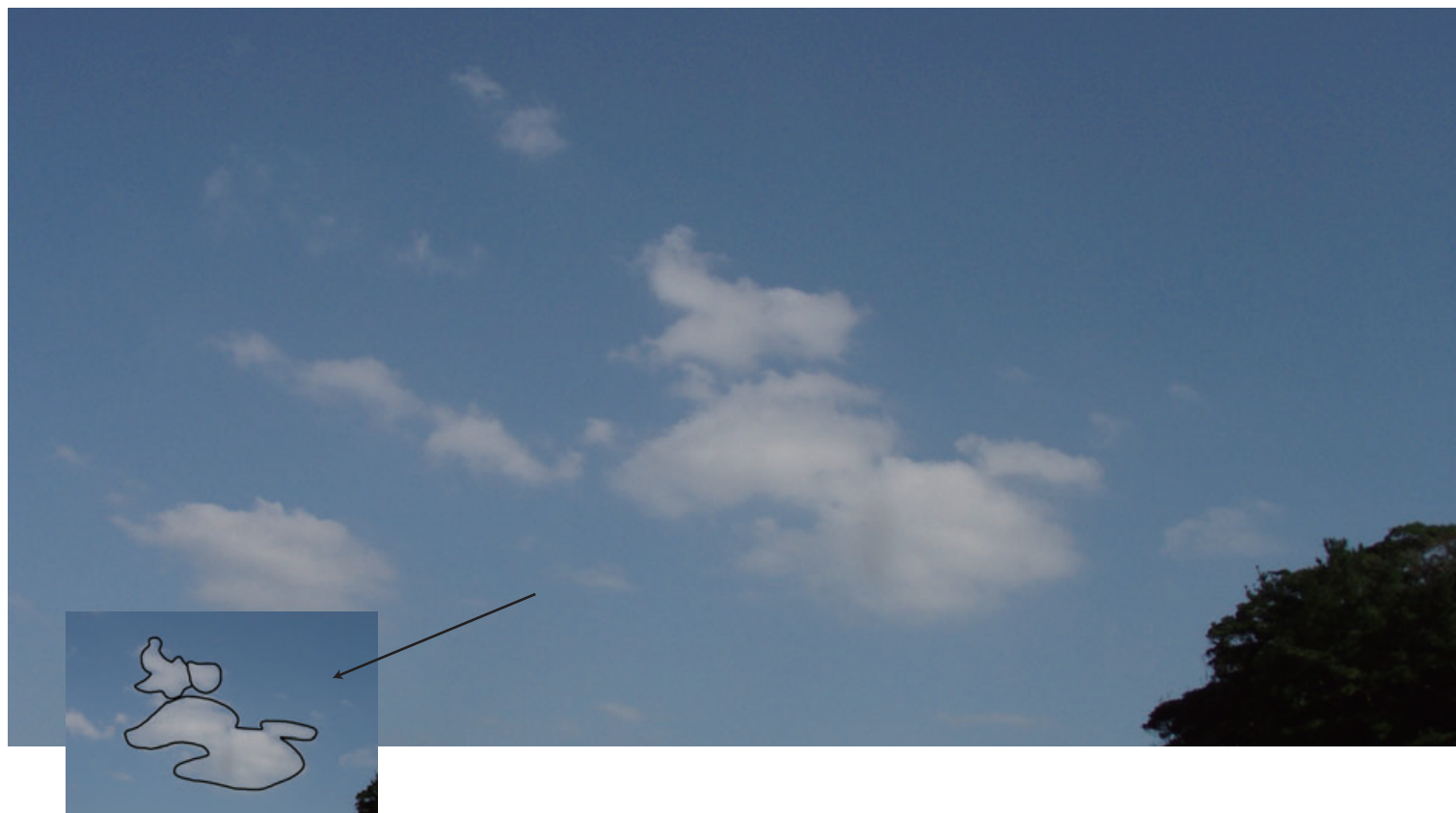




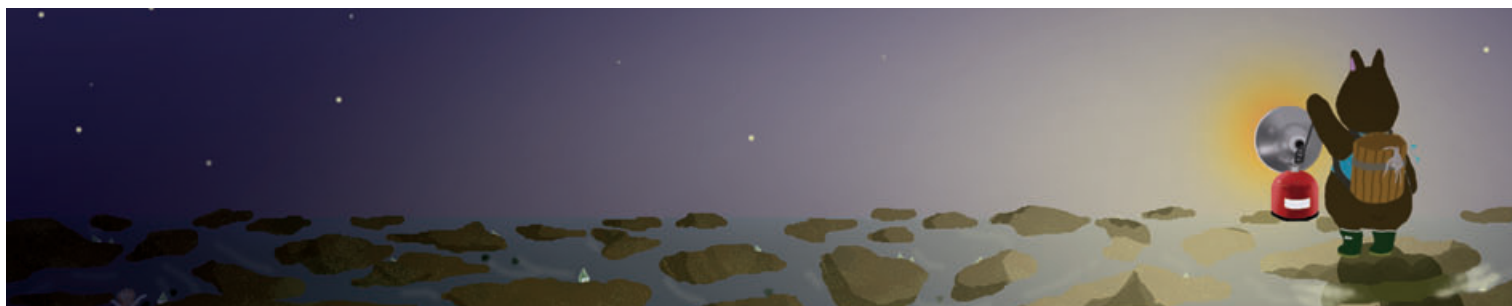
奄美野生生物保護センター
ニュースレター

奄美の風だより



昨年の大晦日はとても寒かったですね。奄美大島の名瀬ではあられが降り、湯湾岳では雪が降りました。みなさまのシマではどうだったでしょうか？

寒い時期は、空が高く澄んで遠くまで見えるように感じます。寒い時期は空の観察などいかがでしょうか？ いろいろなおもしろい形に変化する雲を見ることができます。上の写真は、私には犬が楽しそうに走っているように見えます。雲はあっというまに形が崩れていきますが、また違うところでおもしろい形を作っていきます。空に現れるさまざまな雲。夕方には空の色のグラデーションがとても美しいです。こう寒いと家に閉じこもりがちですが、いつもより厚着をして空の観察に出かけてみませんか。空を眺めていると、ふしぎなことにあっという間に時間が過ぎていきます。(吉田)



奄美の冬の動植物



トラツグミ

冬鳥。農耕地や森林で見ることができます。写真の個体は救護捕獲されたものですが、翌日元気に飛び立っていきました。



ツマムラサキマダラ

成虫は周年見られます。かつては国内にはいなかったチョウですが、最近は奄美大島でも普通に見られます。



サイヨウシャジン

低地～山地の日当たりのよい路傍や草原に生える多年生草本。花卉の色は白いものもあります。花期は10月～2月。



ヤシャベラ

浅海の潮通しのよいサンゴ礁域や外縁に見られます。



今季の一枚 「オオミズナギドリ」

秋から冬にかけて、南方に移動する途中と思われる個体がよく救護捕獲されます。地面にうずくまっていた、怪我をしているように見えますが、実際は単に地面に落ちてしまっただけで、怪我でも病気でもないことがほとんどです。地面から飛び立つのがとても苦手なため、一度地面に落ちてしまうと、なかなか自力で飛び上がれません。こういう時は風の強い高台などで放してやると元気に飛んでいきます。

左の写真は、センターに持ち込まれたオオミズナギドリを放鳥の様子です。救護捕獲された時は、なんだか元気がない様子。しかし、風を感じて飛び立つ時は元気よく羽ばたき、あっという間に空の彼方に飛んでいきました。

生きもののいる風景



道ばたに落ちている鳥の羽を拾った事がありますか？
羽にはたくさんのふしぎがつまっています。
羽からわかる鳥の生活をのぞいてみましょう。



キジバト



羽の役割

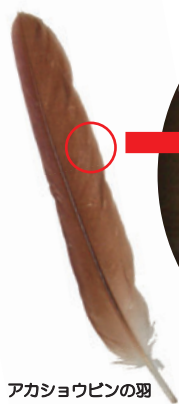
鳥の特徴はなんといっても「羽」が生えていることです。この羽は、飛ぶために必要なものですが、生える場所によって異なった形状と役割をもっています。

- ①【肩羽（かたばね）】体や翼を雨や日差しからまもる役目をしている。
- ②【中雨覆（ちゅうあまおい）】空気の流れを整え、飛ぶための重要な役割をもっている。
- ③【尾羽（おばね）】体のバランスを保ち、飛翔中には舵取りやブレーキの役割を果たす

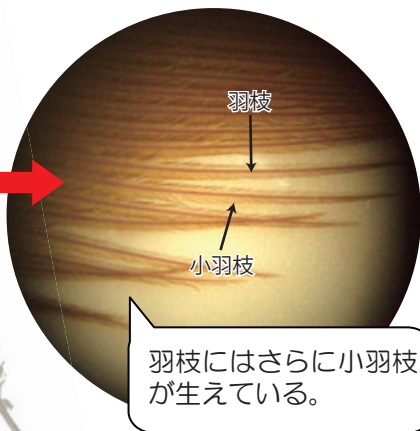
羽の構造



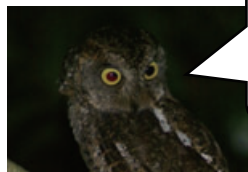
羽を実体顕微鏡でのぞくと…



アカショウビンの羽



羽枝にはさらに小羽枝が生えている。



フクロウの仲間は、飛んでいる時の羽音を消すために、特殊な羽の構造を持っています。

柔らかい羽枝が密に生えている



コミミズクの羽

鋸歯状（きょしじょう）になっている

鳥の種類によって飛び方が異なるため、羽の構造や形、長さなどが違います。どんな違いが見られるのでしょうか。是非自分で観察して見つけて下さい。また、観察してみると一枚一枚の模様の違いや意外な色合いなど、さまざまな発見があります。

生えかわる羽

大体1年に1～2回生えかわります。繁殖期にあたる夏と繁殖期が終わった冬です。それぞれ、夏羽・冬羽と呼びます。



冬羽

夏羽

アマサギ

夏羽・冬羽以外にも種によって特徴的な羽を持っているものもあります。特にサギ類などでは、繁殖期に頭や胸、腰などに「飾り羽」と呼ばれるよく目立つ長い羽が見られます。

チュウサギ



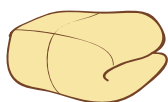
飾り羽

人との関わり

羽毛はさまざまな用途に使われ、私たちにとって身近な素材です。

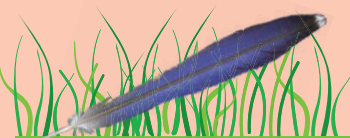


ダウンジャケット



羽毛布団

道ばたで羽を見つけたら…



よく観察してみましょう。羽の美しさや精巧さがよく分かると思います。図鑑を使って、何という鳥のどの部分の羽かを調べるのも面白いですよ。

⚠ 羽を触った後は必ず手を洗いましょう ⚠



お知らせ

第11回 やせいのいきもの絵画展

今年度は「奄美の生きもののおもしろいしぐさ」をテーマに作品を募集しました。応募総数は219点。子どもたちの豊かな感性で描かれたユニークで色鮮やかな絵画を是非見に来て下さい。

- 第11回「やせいのいきもの絵画展」
期 間：平成22年12月11日（土）～平成23年1月30日（日）
場 所：奄美野生生物保護センター（大和村思勝）



報告

第11回やせいのいきもの絵画展 賞状授与式

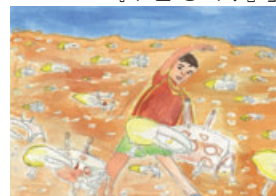
第11回やせいのいきもの絵画展の賞状授与式を12月11日に開催しました。219点の作品の中から12点の入賞作品が選ばれ、入賞者に賞状と副賞が授与されました。

賞状授与式の様子



いきもの大賞

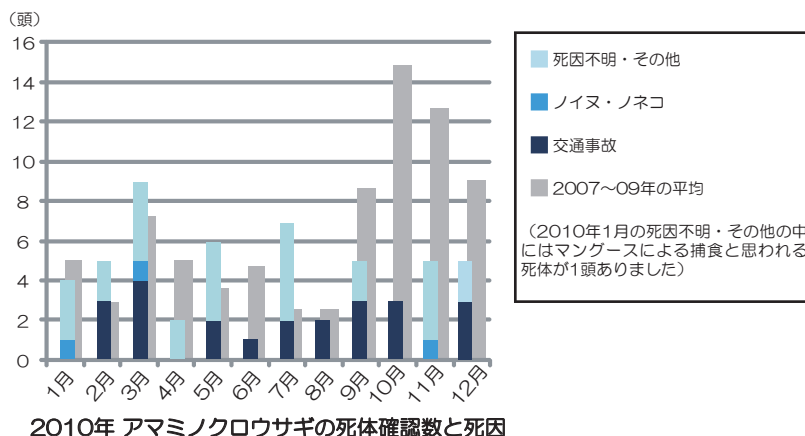
（低学年の部）やまもとかいほ
山元海帆さん
「しまねきといっしょに
『1・2・3・4!』」



（高学年の部）さかえたつゆき
栄辰幸さん
「木にとまっている
スアカオバト」



アマミノクロウサギ死体確認数



例年は9月から12月にかけて死体確認数が増加します。

2010年は54頭の死体が発見されていますが、9月から12月の死体確認数は例年に比べ、少なくなっています。これは、2010年10月に起こった豪雨災害によって道路が寸断され、アマミノクロウサギの生息地域の交通量が少なくなったことが原因の一つだと考えられます。

引き続き、車の運転には十分に注意をして下さい。

※アマミノクロウサギがケガをしていたり、死んでいるのを発見したら奄美野生生物保護センターまで連絡して下さい。

生きもののおもしろ写真館



コシロモンドクガ

ふさふさした触角をもち、トウモロコシのような毛を背中にしょっています。こんな可愛い毛虫がいるですね。成虫になると、地味な配色になります。

編集後記



豪雨災害から3カ月が経ちます。道などの復旧作業が行われていますが、元の奄美大島に戻るにはまだ時間がかかりそうです。未だに雨が降ると、また災害が起こるのでは・・・とビクビクしています。豪雨災害では怖い思いもしましたが、地域の人達に助けられ改めて結の心を感じました。ありがたさまりようた。